

時ハ惟れ明治二十〇九年六月十五日岩手ノ宮城青森の三県海辺にノ起りし大海嘯ハ実に猛烈を極めたり、此日ハ恰も旧暦の端午にて家族友ノ人相会し宴飲を尽しつゝありしが、突然沖合に當つて巨砲を發したるが如き響ノあり、人々怪ミ屋外に出んとする一瞬間、數丈の狂瀾襲ひ來り、三万に近き人命をノ家屋と共に一掃せり、幸に逃れしも、或ハ為に不具者となり、或ハ食ノふに粟なく、其慘憺悽愴たるの状、能く筆舌の尽ノす所にあらず、ノ口堂今回稀有の大海嘯ノ実況を出版して博く天下のノ仁人に照会し、此同胞目前のノ口を救助するの義務をノ尽せられんことをノ希望す、